



年間第 29 主日 (マタイ 22:15-21)

すべてのことに神の肖像と銘がある

「イエスは、『これは、だれの肖像と銘か』と言われた。」(22・20) 刻まれている肖像と銘に従って、責任を果たす。今週はこのようにまとめられると思います。では私たちに刻まれている肖像と銘は、どのようなものでしょうか。考えてみましょう。

司祭・助祭叙階式が行われ、稲田新司祭と鼈甲屋新助祭が与えられました。稲田新司祭は、助祭として奉仕していた福江教会に、引き続き助任司祭として赴任することになりました。鼈甲屋助祭は、大神学院の課程を修了するまで、ひとまず福岡に戻ることになります。

翌日、「司祭の日」のミサが行われ、新司祭・銀祝・金祝・ダイヤモンド祝を迎えた司祭方のお祝いがミサの終わりに設けられました。下川神父様はお元気にしておられ、山内豊神父様が体調にまったく不安がなければこの場で一緒に祝ってあげたかったなあと思いました。

それぞれ、短い感謝の言葉を述べたのですが、新司祭の挨拶には度肝を抜かれました。「昨日、叙階の秘跡を受け、司祭とさせていただきます。昨日のことにように思い出します」と涼しい顔でした。「『ゆとり世代』は挨拶も余裕があるな」と感心しました。どんな働きをするのか、これから楽しみです。

今週の福音朗読、「これは、だれの肖像と銘か。」このイエスの問いかけはいまだに私の中で消化し切れていません。生涯問い続ける必要があるかも知れません。納税の問題で罌を仕掛けようとデナリオン銀貨を持ち出し、言葉じりを捉えようとした人々の悪知恵。その手にあるデナリオン銀貨は、よくできた貨幣だったのでしょ。ローマ皇帝の肖像であると一目で分かったようです。

貨幣の鑄造の技術にせよ、イエスを罌に陥れようとする悪知恵にせよ、技術や知恵は、人間の素晴らしさを表しますが、しかしその技術と知恵を授けたのは人間ではありません。使い方の差はあっても、すべての技術、すべての知恵は、もともとは神から人間が授かったものです。

「これは、だれの肖像と銘か」この言葉には、見える肖像と銘の向こうに、神がおられるのではないか。すべてのものの向こうに神の働きを見て、神のものは神に返しなさいと言っているように感じるのです。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」これは区別して言っているのではなく、生活のすべてに世の中で返すものがあり、神に返すものがあると思っさせているのです。

叙階式ミサの次の日に設けられた「司祭の日」のミサ、司祭生活 60 年とか 50 年の方々の姿にはいろんな重みを感じられました。彼ら大先輩方も、この世のものはこの世に返し、神のものは神に返す、その長い人生を送ってきたのだと思います。

司祭だけに求められるものもあったことでしょう。この世のものを返すのに命まで削る必要はありませんが、神のものを返すためには、と

きには命を削ってでも務めを果たすことがあったでしょう。それらを内に秘めて、祭壇に上がって、新司祭や銀祝の司祭と並んでいる。すごいことだなと思いました。

「これは、だれの肖像と銘か。」生涯にわたって自分に問いかける必要を感じたのは、25年を過ぎた頃からかも知れません。何かの務めを果たす時、かつてはその務めが10年後、20年後にどのようになるのか、考えもしませんでした。ただ懸命に務めを果たすだけでした。

それが、25年を過ぎると今までにない考えが頭をよぎります。一つの務めを果たした時、それは10年後、20年後の蓄えになる。そのような考えが浮かんできたのです。たとえば、11月からは聖書愛読運動で、予定ではコリントの信徒への手紙一と二を読むつもりでいますので、そのための資料の準備をしています。

かつてであれば、聖書愛読のために準備したことが次にどう繋がるかなど、考えもしなかったでしょう。けれども今は、「ここで努力したことは、将来努力しないで使えるようになる」と、独り考えてしまうのです。努力することに偽りはありませんが、神に返すべき努力の、その何割かを自分のために還元しようと考えてしまうのです。

ですから何度でも、自分に問い直すのです。きっと生涯、問い続ける必要があるのです。「これは、だれの肖像と銘か。」洗礼を受けて神のものとされた。私はどこまで、神のものを神に返しているだろうか。堅信を受けて大人の信者となり、かつては「キリストの兵士」とさえ言われてきた。私はどこまで自分を神に帰しているのだろうか。

ましてや司祭・奉献生活者は、イエスに身も心もおささげした者です。司祭生活が25年を過ぎたあたりから、「ここで恩を売っておこう」「こういう形で名前を残しておこう」「今苦勞しておけば、次のときには何の苦勞もせずに恩を売れるではないか」考えることはまるで「神のものをこの世のものとすり替える働き」になっています。

新型コロナウイルスの影響で、多くの計画が中止になりました。それによって与えられた時間は、果たして神のために使ったのでしょうか。ここでひとやすみしようと、この世のために使ったのではないのでしょうか。大いに反省させられるところです。

余談ですが、来週26日、私は長崎市の聖フランシスコ病院で人間ドックを受けることにしています。身も心も神のものですから、よりよく教会の働きができるように、十分検査を試みようと思っています。そしてこの機会に、「これは、だれの肖像と銘か」このイエスの言葉を繰り返し言い聞かせ、自分に問うてみたいと思います。